

ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

2020年度第1四半期決算説明資料

2020年7月31日

- ▣ 1. 2020年度第1四半期決算概要 - P.3
- ▣ 2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数 - P.4
- ▣ 3. COVID-19影響と対応・
2020年取り組み・通期見通し - P.5
- ▣ 4. 参考資料（船隊構成、航路構成） - P.6

1. 2020年度第1四半期決算概要

□ 要点

COVID-19影響により積高が大きく減少。一方、短期市況が比較的安定的に推移したことや、柔軟な船腹調整や減便によりコスト圧縮に努めたことに加え、Bunker Surchargeに先行して燃料油価格が短期的かつ急激に下落したことなどから、167百万US\$の黒字を達成。

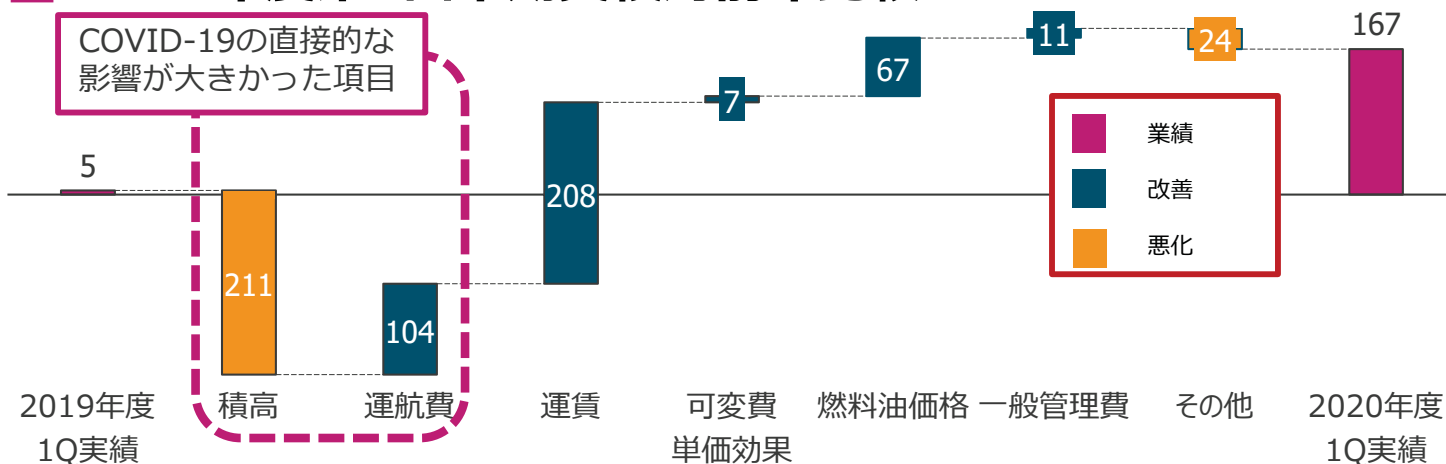
□ 2020年度第1四半期実績

(単位：百万US\$)

	2019年度	2020年度	1Q	
	1Q実績	1Q実績	増減	増減 (%)
売上高	2,875	2,736	-139	-4.8%
税引き後損益	5	167	162	3173%
燃料油価格 (US\$/MT)	\$432	\$348	-\$84	-20%

2020年度1Q その他実績	
□ EBITDA	: 488 百万US\$
□ EBIT	: 242 百万US\$
□ 総燃料消費量	: 877千 MT
□ 総積高	: 2,673千 TEU

□ 2020年度第1四半期実績対前年比較



- 積高：COVID-19影響で減少
- 運航費：追加での減便実施、柔軟な船腹調整等により圧縮
- 運賃：短期市況の堅調さにより改善（OBS効果を含む）
- 可変費単価効果：ほぼ前年並み
- 燃料油価格：油価下落
- 一般管理費：代理店料、システム費用等の減少
- その他：主に為替影響

2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数

(単位：千TEU)

航路別積高・消席率		2019年度							2020年度
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績
北米往航	積高	669	773	1,442	665	585	1,250	2,692	610
	消席率	86%	94%	90%	93%	92%	93%	91%	96%
欧州往航	積高	460	488	947	440	443	882	1,830	347
	消席率	87%	95%	91%	92%	100%	96%	93%	96%
北米復航	積高	350	310	660	320	331	650	1,310	327
	消席率	47%	37%	42%	42%	49%	45%	44%	51%
欧州復航	積高	323	328	651	362	325	687	1,339	290
	消席率	64%	64%	64%	72%	67%	69%	67%	75%

(2018年度1Qの各航路総平均運賃を100とした指数)

運賃指数		2019年度							2020年度
		1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績
北米往航		103	105	104	104	110	107	105	110
欧州往航		100	101	100	98	111	105	102	106

- 積高・消席率：COVID-19の影響を受けて積高は減少。
需要に合わせた減便の追加実施により高消席率を維持。
- 運賃指数：短期市況は堅調に推移。

3. COVID-19影響と対応・2020年度取り組み・通期見通し

COVID-19影響と対応

荷動きへの影響	全世界的な需要の減退により、1Qの荷動き減少は対前年比2割弱程度だったが、2Qにかけて回復が見られており、足下では対前年比1割程度の減少まで回復。ただし世界的な感染拡大と需要の見通しは非常に不透明となっており、引き続き動向を注視。
危機管理対応	CEOをトップとする危機管理委員会を中心に、従業員や船員の安全を第一に、重要な社会インフラである定期船サービスの安定継続に努める。デジタル技術を活用し世界各国拠点でBCPを継続中。
コスト削減策	荷動きの増減に合わせた柔軟な配船を計画、実施中。船腹調整を機動的に行うことで、固定費の圧縮を可能な限り実行中。

2020年度取り組み

競争力強化と差別化に向けた取り組み	Customer service oriented	Operation excellency	Quality of employee
	<ul style="list-style-type: none"> THE ALLIANCEに現代商船が加入済。一層競争力のある多彩なプロダクト（配船・サービス）を実現 顧客体験向上を目的とした顧客タッチポイントの改善（live chat, e-commerceなど） 新規デジタルサービスへの理解度向上の為にコンテンツ配信 オンラインカスタマーイベントによる対顧客コミュニケーション向上 	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルとの協業による運航の効率化や、コストセーブ活動に着手 熊本エンジニアリングラボを中心とした積み付けを含む運航効率最適化 AIを活用した最新需要予測モデルによる空コンテナ在庫調整および回送効率化 	<ul style="list-style-type: none"> ONE Core Valueの浸透を通じて、会社の目指す姿に対する社員の理解を深化、モチベーションを維持・向上 デジタル化の加速に伴う社内教育の充実化 SNSを利用した情報発信の拡充による、社員の自社理解促進 世界各地での地域貢献への取り組み（⇒CSRサイトへのリンク）

2020年度通期見通し

➤ 今後もCOVID-19の収束が見通せず、当面の間は経済環境が不透明な状況が続くため、合理的な将来の見積もりが困難となっており、期初に引き続き現時点では未定。

4. 参考資料

船隊構成

Size	1)2019年度末		2)2020年6月末		2)-1)
	>= 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	120,600	120,600	0
	隻数	6	6	0	0
10,500 - 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	349,000	396,600	47,600	
	隻数	25	29	4	
9,800 - 10,500 TEU	キャパシティ(TEU)	100,100	100,100	0	
	隻数	10	10	0	
7,800 - 9,800 TEU	キャパシティ(TEU)	356,811	374,326	17,515	
	隻数	40	42	2	
6,000 - 7,800 TEU	キャパシティ(TEU)	234,706	202,080	▲ 32,626	
	隻数	36	31	▲ 5	
5,200 - 6,000 TEU	キャパシティ(TEU)	100,910	83,992	▲ 16,918	
	隻数	18	15	▲ 3	
4,600 - 5,200 TEU	キャパシティ(TEU)	123,372	113,580	▲ 9,792	
	隻数	25	23	▲ 2	
4,300 - 4,600 TEU	キャパシティ(TEU)	71,816	62,952	▲ 8,864	
	隻数	16	14	▲ 2	
3,500 - 4,300 TEU	キャパシティ(TEU)	29,750	25,408	▲ 4,342	
	隻数	7	6	▲ 1	
2,400 - 3,500 TEU	キャパシティ(TEU)	63,671	60,704	▲ 2,967	
	隻数	24	23	▲ 1	
1,300 - 2,400 TEU	キャパシティ(TEU)	12,070	10,296	▲ 1,774	
	隻数	7	6	▲ 1	
1,000 - 1,300 TEU	キャパシティ(TEU)	8,488	7,452	▲ 1,036	
	隻数	8	7	▲ 1	
< 1,000 TEU	キャパシティ(TEU)	0	0	0	
	隻数	0	0	0	
合計	キャパシティ(TEU)	1,571,294	1,558,090	▲ 13,204	
	隻数	222	212	▲ 10	

第1四半期末

航路構成

(2020年1Q 往復スペースの構成)

